

講演 受け容れる勇氣、 お任せする覚悟 ～発達障がいと不登校の出口

家庭教師システム学院 代表 長谷川 満



7月9日に開かれた第656回「おてつき文化講座」の要旨を採録しました。

● 幸せになるためには「待つこと」「ゆるすこと」「笑うこと」

先日、大阪での講演後に一人のお母さんから相談を受けました。「小1の男児ですが、私がスキンシップを取ろうとしたり、ハグしようとしたら嫌がって逃げ回るんです。どうしたらいいでしょうか」と。

実はこの方、旦那さんのご実家とほぼ絶縁状態にあり義理のご両親とは一切接触を断たれておられました。「お子さんはあなたからの接触を拒絶されている。あなたは義理のご両親からの接触を拒絶されている。これ、そっくりの構図ですね。あなたが今悩まれているように、義理のご両親や旦那様もこのことで悩まれているのではないのでしょうか。それをこの子が身をもって教えてくれている。そう思われませんか」。このようにお話をしました。

親は子どもを通して色んなことを教えてもらっています。ですから、子育ては子どもから謙虚に学ぶ姿勢が欠かせないのです。

私の詩で「幸せになる練習」というのがあります。

子育ては 待つ練習

夫婦は ゆるす練習

人生は 笑う練習

子育てを通して親も学ぶわけです。幸せになるためには「待つこと」「ゆるすこと」「笑うこと」、三つが大切です。それを学ぶのが夫婦であり、子育てであり、人生なんだと思います。

「先生、人を本気で憎んだことあるか」



長谷川 満 (はせがわ みつる)

1961(昭和36)年、京都市生まれ。1987年、加古川市に家庭教師システム学院を設立。多くの家庭教師を指導すると共に、自身も家庭教師として意欲を引き出す学習指導を実践。不登校や発達障がいの子どもたちとその家庭も多数指導。2006年に親学講座ペアレントセミナー開始。詩や楽曲を取り入れた分かりやすい講演が好評を得て、全国の自治体や各地のPTA、幼・小中学校を中心に講演活動中。「いい親になろうとせず、いい子に育てようせず、自然体の子育てが子どもを幸せに伸ばす」と、無為の子育てを提唱。著書に「あなたも子どもそのままがいい～長谷川満の親学講座」(2012年)